

2003年(平成15年)阿嘉島臨海研究所の1年間の動き
List of research activities at AMSL by visitors and staff members in 2003

●主な利用者と研究課題など(敬称略)

- 1月 「サンゴの卵吸収に関する研究」 大久保奈弥(東京工業大学生命理工学研究科):3月、4月、6月、11月にも実施
「有性生殖を利用した造礁サンゴ群集の大規模修復・造成技術の開発」 林原 毅((独)水産総合研究センター西海区水産研究所):6月、8月にも実施
「阿嘉島周辺の栄養塩濃度及び陸域利用調査」 大見謝辰男ほか(沖縄県衛生環境研究所)
「現生有孔虫の研究」 八田明夫(鹿児島大学教育学部):3月にも実施
「サンゴ礁生態系の多様性解析」 横内裕子(東京農工大学工学部)ほか
- 2月 「サンゴ幼生の着生に関する研究」 Aileen Morse(Marine Biotechnology Center, Marine Science Institute, University of California Santa Barbara)
「サンゴ礁の物理環境調査」 綿貫 啓ほか((株)テトラ):9月、10月にも実施
「造礁サンゴの海洋汚染物質に対する耐性の研究およびサンゴと石灰化細菌の関連に関する研究」 渡辺俊樹(東京大学海洋研究所)ほか
- 3月 「サンゴ礁海域における女性ホルモン様物質の挙動」 岩崎誠二(三重大学生物資源学研究科):12月にも実施
「サンゴ礁航空機観測データの現地検証」 山野博哉(国立環境研究所)ほか:9月にも実施
- 4月 「我が国におけるエーリキア及び紅斑熱群リケッチアの疫学」 村松康和(酪農学園大学獣医学部)
- 5月 「マリブロックによるサンゴ類着生評価に関する研究」 秋元不二雄ほか((株)芙蓉海洋開発)
「サンゴ増殖技術の開発」 綿貫 啓ほか((株)テトラ):6月、8月にも実施
「ケラマ諸島産Caulerpaの系統分類学的研究」 畠田 智(北海道大学先端科学技術共同研究センター)ほか
「サンゴ種苗生産の研究」 服田昌之ほか(お茶の水女子大学理学部):6月、11月にも実施
「サンゴ礁付着性メイオバントスの生態学的研究」 鈴木 豪(京都大学大学院農学研究科)
「琉球列島におけるサンゴの分散」 西川 昭(琉球大学大学院理工学研究科):6月にも実施
「大量維持中のサンゴ幼生の生残率」 横川雅恵(日本大学生物資源科学部):6月にも実施
- 6月 「To induce skeletogenesis with natural algal source」 Aileen Morseほか(Marine Biotechnology Center, Marine Science Institute, University of California Santa Barbara)
「造礁サンゴ幼若体の骨格形成時に発現する遺伝子の研究」 渡辺俊樹ほか(東京大学海洋研究所)
「同位体を利用したサンゴ礁のCO₂吸収効果の研究」 立田 穰((財)電力中央研究所)ほか
「造礁サンゴ幼生の分散・定着に関する研究」 波利井佐紀(東京工業大学情報理工学研究科)
「サンゴの形態形成の観察」 山上 晋(東京工業大学生命理工学研究科)
- 7月 「Examination of the habitat distribution of sea anemones and anemone fishes」 Michael Arvedlund(琉球大学熱帯生物圏研究センター):11月にも実施
「海洋生物の刺胞毒に関する研究」 永井宏史(東京水産大学水産学部)ほか
パラオ国際サンゴ礁センターで催されたPalau Coral Reef Conferenceで大森 信所長が「Development of coral reef restoration technology by mass culture, transportation and settlement of coral larvae」を口頭発表。
- 8月 「慶良間諸島におけるウミガメとアカマタの生態」 太田英利(琉球大学熱帯生物圏研究センター)ほか
「海洋無脊椎動物の硬組織の石灰化機構の解明」 大井田新一郎ほか(鶴見大学歯学部)
「サンゴ礁物理環境調査」 灘岡和夫ほか(東京工業大学情報理工学研究科)

-
- 9月 「共生藻認識に関わる八放サンゴレクチンの機構に関する研究」 小池一彦ほか（北里大学水産学部）
「土壌流出モニタリング」 大見謝辰男（沖縄県衛生環境研究所）ほか
「イソクラエビ類の系統分類学的研究」 福岡弘紀（（独）国立科学博物館）
- 10月 「アオヒトデのNGF様活性サポニン」 小鹿一ほか（名古屋大学大学院生命農学研究科）
「海綿の生物活性二次代謝産物の研究」 浪越通夫（東京海洋大学海洋科学部）ほか
- 11月 「赤土等汚染海域定点観測」 上原睦男（沖縄県衛生環境研究所）ほか
日本サンゴ礁学会第6回大会で、大森 信所長らが「生け簀によるサンゴ幼生の飼育：飼育中の生残率と長距離輸送の可能性」を口頭発表、谷口洋基研究員が「ミドリイシサンゴによるシロレイシガイダマシの誘引」、岩尾研二研究員が「サンゴの着生加入と底質上藻類との関係」をそれぞれポスター発表。
- 12月 「サンゴ種苗生産の基礎技術の開発」で服田昌之助教授（お茶の水女子大学）と岩尾研二のグループが沖縄研究奨励賞を受賞。

●その他の主な来所者（来所日順）

JICA研修生ほか、大森 清、藤田陽子（琉球大学）、饒平名知克（内閣府振興局）ほか、高橋達人ほか（（株）JFEスチール）、小笠原順子ほか（（財）日本国際協力センター）、David Idip（国際協力事業団研修員、パラオ共和国）、宇多文雄（上智大学）ほか、伊佐英信（琉球大学）、池田 穰ほか（（株）間組）、古松伸茂ほか（（株）極東建設）、古瀬和雄ほか、溝内俊一ほか（内閣府沖縄総合事務局）、小倉 剛ほか（琉球大学）、山城秀之ほか（名桜大学）、長光正純ほか（日本財団）、名城鉄夫（作新学院大学）瀧 梢、座間味中学校生徒、埼玉県立坂戸高等学校生徒、岩永節子（沖縄県衛生環境研究所）、平山正道（（有）平山企画）、宮谷一二三（（株）北九潜水）

●AMSL刊行物

「みどりいし」No. 14、「アムスルだより」Nos. 59-64.

●発表論文等

- 青田 徹・綿貫 啓・大森 信・谷口洋基 2003. プラヌラ幼生の大量運搬によるサンゴ礁回復技術の開発. 海洋開発論文集, 19: 379-384.
- Fukami, H., M. Omori, K. Shimoike, T. Hayashibara and M. Hatta 2003. Ecological and genetic aspects of reproductive isolation by different spawning times in *Acropora* corals. *Mar. Biol.*, 142: 679-684.
- Hatta, M. and K. Iwao 2003. Metamorphosis induction and its possible application to coral seedlings production. *Recent Advances in Marine Science and Technology 2002*. p.465-470.
- Omori, M. 2002. Coral reefs and coral reef studies in Japan. *Proc. 9th Int. Coral Reef Symp.*, vol.1: 41-42.
- 大森 信 2003. 限りある海の生物資源：滅びの道を走らないために. 楽水, (803): 21-26.
- 大森 信 2003. サンゴ礁の環境保全. 遺産, 57(2): 46-52. pl.1.
- 大森 信（編著） 2003. サンゴ礁修復に関する技術手法－現状と展望. 環境省自然環境局, 81pp.（阿嘉島臨海研究所 谷口洋基、岩尾研二らが共同執筆）
- Saraswati, P. K., K. Shimoike, K. Iwao and A. Mitra 2003. Distribution of larger foraminifera in the reef sediments of Akajima, Okinawa, Japan. *Jour. Geol. Soc. India*, 61: 16-21.

訃報---

2003年10月12日、金城名輝氏（オリオンビール株式会社最高顧問）がお亡くなりになりました。享年68歳でした。金城氏は、1995年6月より当財団の評議員を務め、運営にご尽力頂きました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。